

校訓	真善美	平成31年度学校だより	発行日	令和2年1月8日
教育目標	自主、自立、感謝の精神を抱き、 未来を拓く生徒の育成 —豊かな心、確かな学力、健やかな体を育てる—	「荒中だより」 第27号	発行者	伊丹市立荒牧中学校 校長 難波 重之

## 令和二年年頭にあたって

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひします。一月は「睦月」<sup>むつき</sup>と言ひます。「睦む」<sup>むつ</sup>とは「仲良くする」ということ。お正月に親しい人が集まり仲睦まじくするからと言ひられています。家族や親せき、友達などが集まり仲良く楽しい時間を過ごせましたか？

さて、今年には東京オリンピック・パラリンピックが行われます。皆さんの先輩荒井<sup>あらい</sup>祭里<sup>まつり</sup>さんの出場が内定しているのだから、たいへん楽しみですね。東京での開催は2度目ですが、56年前の東京大会は、オリンピックとパラリンピックが初めて同時開催された大会でした。当時はまだパラリンピックと呼ばれておらず、戦争で負傷した兵士が参加する規模の小さな大会だったそうです。また、重度の障がいを持った人は、身体を動かさないことや人前にあまり出ないことが当たり前の世の中で、障がいを持った人への偏見<sup>へんけん</sup>が根強くありました。しかし現在のパラリンピックは、アスリートによる『競技スポーツ』の地位を確立し、私たちに多くの感動と勇気を与えてくれています。

12月20日に、卒業生の北間優衣<sup>きたま ゆい</sup>さんが来校してくれました。北間さんは、車いすバスケットで東京大会を目指すため、仕事は週2日にして、バスケット中心の生活をされています。彼女は生まれながらの二分脊椎<sup>にぶんせきつい</sup>という病気で、3歳から車いす生活でした。車いすバスケットとの出会いは、中学1年の時にバスケット部の先生に連れていってもらった男子の大会でした。

男子の激しいぶつかりや転倒<sup>ま</sup>を目の当たりにして、「こんなん絶対無理!!」と思ったそうです。

しかし顧問の先生が、「まずやってみなさい。やる前に無理だと決めつけるのはチャンスを逃



しているのと同じ」と、背中を押してくれたそうです。

北間さんは先月、日本代表の一員として、アジア・オセアニア大会に参加し、「中国、オーストラリアについて三位でした。中国が大きくて、強いのです。2月の大会で活躍できれば、代表に選ばれると思うので頑張ります」と力強く語ってくれました。2月には大阪で、カナダやイギリスなどを招いた大会があるので、私は応援に行こうと思っています。そして5月に発表される東京パラリンピック日本代表に選出されることを願っています。

前回の東京大会の頃と比べると、現在は障がいを持った人への理解は進みました。そして皆さんが生きるこれからの社会はさらに進んだ『共生社会』になっていくことでしょう。『共生社会』とは、男性も女性も、高齢者も若者も、障がいのある人もない人も、日本人も外国人も、互いの人権を尊重し合い支え合って生き生きとした人生を歩む社会です。

北間さんは、「小中学校の時に、車いすが理由で嫌な思いをしたことがありません。ドッジボールなら車いすに当てるのはなしとか、サッカーならほうきを持ってやるとか、みんなが私も入れて一緒にできるルールを考えてくれたんです」と仰っています。皆さんが豊かな共生社会を築くには、自分の周りにいるクラスメイトのことをよく知り、理解することだと思います。荒牧中学校の全てのクラスが、そのような豊かで温かい共生社会を目指してほしいと思います。



最後に、江戸時代末期に活躍した吉田松陰の次の言葉を三年生に贈ります。

『志こころざし 定まれば 気さかなり』ということばです。これは、『いったん決心がつけば、意気が高まりどのようなことにも立ち向かい実現できる』という意味ですが、受験校が決まった今、入試に向けて迷いなく、そして自分を信じて精いっぱい頑張ってください。応援しています。



**自信と誇りを持てる**

**学校を創ろう!!**

